

2022年3月27日（日） 近畿旧友会ハイキングクラブ さんぽかい「燦歩会」例会（第512回）

第1回例会の「白毫寺～北山やまのへの辺の道」を再訪する



コロナ禍がやや治まりを見せ、ようやく例会が出来ました。このコースは当初昨年1月に、500回の例会を記念して、第1回のルート^{さんぽかい}を再訪するものでした。ところがコロナのため延期。それならば名物の椿を見ようと3月に企画し直すも延期。いっその事、秋に名物の萩を見ようというのが、またまた延期。“花の寺”白毫寺の名物も「椿」から「萩」へ、また「椿」と、周回遅れでやっと実現したのです。

（引率担当者はルートの山道など3度も下見し直したそうです）

久しぶりの「晴れる燦歩会」になりました。予報は曇り後晴です。参加は男性14名、女性5名。興福寺境内の桜は早くも満開、馬酔木の花もたわわに枝を飾っていました。



興福寺三重塔は、五重塔ほど目立たない所にあります。平安時代末の建築で、繊細優雅な姿で、国宝に指定されています。

塔の向こうの建物の辺りには、かつてNHK奈良放送局がありました。1952(昭和27)年から1971年までの事です。

鹿とたわむれつつ、春日大社の広大な森を抜けて、山の辺の道（やまのへのみち）を南へ進みます。この道は奈良盆地の東にそびえる青垣の山並みの裾を縫うように、北は春日山の麓から南は三輪山の麓（桜井市）まで走っています。全長は約35km、日本最古の道とも言われ、沿道には多くの寺社や古墳があって、この地に古代国家の中核があり、重要なルートであったことが知られています。今回は北の一部を歩きます。



新薬師寺境内の桜も満開でした。門前から拝むだけにして先を急ぎ、途中の公園で昼食をとりました。

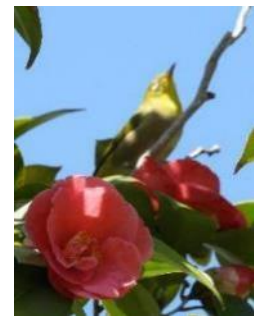


いよいよ白毫寺に登ります。
天智天皇の第七皇子・志貴皇子の山荘を寺にしたと
いう伝えもある程に古いお寺です。戦乱で度々火災に
遭っていますが、平安～鎌倉時代の仏像が多く、国の
重要文化財に指定されています。
白毫寺への参道はなかなかの坂道です。

石段を登り終え、振り返ると
見事な眺望に驚かされます。
前夜、夜中まで大雨が降った
だけに、空気が澄んで、直下
の奈良の町並から、遠く生駒山
まで、一点の隈もなく見晴る
かす事が出来ました。



「花の寺」として知られる白毫寺でも、「五色椿」は最も
知られたものです。樹高約5メートル、樹齢は約400年に
達するとも言われる大きな椿の木（奈良県天然記念物）です。
その名の通り紅色・桃色・白色のツバキの花が、様々な斑模
様を描きながら咲き誇り、「奈良三名椿」の一つとされてい
ます。（奈良三名椿については、補足で触れます。）
1本の木に咲くとりどりな色合いの椿、メジロの姿も見られ
ました。



山の辺の道を南へ進みます。
のどかな田園風景が広がる道ですが、鹿や
イノシシが入り込んで農作物を荒らす為、
所々設けられた金網のゲートを、開けたり
閉めたりしながら、南へたどります。
道の傍らに鹿らしき足跡もありました。





白毫寺からおよそ3 km。崇道天皇（すどうてんのう）の御陵に来ました。八嶋陵（やしまのみささぎ）です。森を白い壁が囲んでいます。謎に満ちた崇道天皇。歴代の天皇表にその名はありません。

歴史辞典の見出しも「崇道天皇⇒早良親王」となっていて、「早良親王（さわらしんのう）」の項を見なければなりません。

早良親王は光仁天皇（49代）の皇子で幼くして東大寺に入って修業します。この時の法名が「崇道」なのだそうです。31歳の時還俗して、桓武天皇の弟として皇太子の地位に就きます。ところが785（延暦4）年藤原種継の暗殺事件が起き、早良親王はこれに関与した容疑で捕らえられます。王は自ら飲食を絶ち、流刑地の淡路へ移送される途中の高瀬橋（大阪府守口市）で亡くなります。36歳でした。遺骸は淡路に送り葬られますが、その後宮中や都では病気や災害が相次ぎ、それが早良親王の祟りとして恐れられるようになります。そこで桓武天皇は慰霊の行事を行い、天皇の称号を贈り、またこの八嶋の地に御陵を設け葬ったというのです。

御陵の前の道路の真ん中に驚くべき一画がありました。柵に囲まれた中に、大きな石が横たわっています。古墳の跡です。石は石室の天井石と考えられ、南北およそ7m幅3m、奈良市史考古編には「古墳時代後期の小型の横穴式石室古墳で、覆っていた土は失われて、元の形は全く分からなかった」として、「八嶋陵前石室古墳」と名付けられています。



石の上に花が手向けられていました。地元ではこの巨石は「八つ石」とよばれていて、こんな言い伝えがあるそうです。早良親王が淡路の国で最期の時、石を九つ放り投げ、「この石の落ちた所に葬って欲しい」と告げて亡くなります。その石の内八つが、遠くこの地で見つかった為、御陵がここに営まれたというのです。八嶋という地名も「八つの石」に由来すると言います。謎の事件の渦中で非業の死を遂げた皇子、その陵の前に在る謎めいた巨石（実際はこちらの方が時代は古いのですが）、その二つがない交ぜになって、言い伝えが生まれたのでしょうか。



最後に訪ねたのは円照寺です。歴代住持に皇女が入寺した事から、土地の名を付して「山村御殿（やまむらごてん）」とも呼ばれ、華道の「山村御流」の家元でもあります。斑鳩の中宮寺、佐保路の法華寺と共に大和三門跡の歴史あるお寺です。拝観はできません。山門前で会員の高柳恒麿さんが、円照寺と三島由紀夫の小説「豊穰の海」について語ってくれました。小説では「月修寺」と描かれます。

円照寺境内の桜の下で全員写真です。

山村町発 15時52分のバスに乗り、奈良で解散しました。



相変わらずの補足で失礼します。

奈良三名椿 白毫寺の他、二つのお寺にあります。3月25日に見て来ました。

◎東大寺開山堂の「糊こぼし」

二月堂の足元、良弁僧正を祀る堂の「良弁椿」は、別名「糊こぼし」と言われています。花びらに浮かぶ白い斑が、あたかも糊をこぼしたように見えるためです。開山堂は普段は参拝出来ないのので、糊こぼしも間近で見ることが出来ず、築地塀越しに、望遠レンズでやっと撮る事が出来ました。



◎伝香寺の「散り椿」

戦国の大名筒井順慶の菩提所で、奈良の町中のお寺です。樹の高さは4.5m、大きく枝を拡げて、一杯に桃色の花を付けています。桜の花のように一枚、一枚と散る潔い様を、「武士椿（もののふつばき）」とも呼んでいるそうです。



崇道天皇陵の古い絵図



偶然の事ですが、この八嶋陵を描いた絵図「八嶋寺及び崇道天皇社絵図」が、新たに奈良市史料保存館に収蔵され、3月に公開されていました。

明治時代初頭までのこの辺りの様子がかがえます。絵図がこの地のものである何よりの証拠は、画面左下の黄〇で囲んだ数個の巨石です。

絵図の上部左側が八嶋寺、右側の鳥居と瑞垣で囲われた辺りが崇道天皇社。神仏混交の頃ですから、神社と寺が対になっています。

八嶋寺は806（大同元）年に早良親王の菩提を祈り怨霊の祟りを鎮めるために建立されました。陵前の八つ石に因んで「八石山」と号し、三重塔などもある立派な伽藍だったと言いますが、1875（明治8）年、明治維新の廃仏毀釈の嵐の中で廃寺となります。

一方、崇道天皇社は永く近隣12ヶ村の郷社として信仰を集めていましたが、一帯が天皇陵として整備される事になり移転します。明治19年の事です。今は400mほど東、山手の嶋田神社に合わせ祀られています。嶋田神社は、平安時代の神社一覽延喜式神名帳にも載っている歴史ある神社です。



崇道神社に祈る

恐ろしい神様を丁寧にお祀りすれば、味方になって護ってもらえるかも…。

或いは身近な神様として、親近感さえも感じていたのではないのでしょうか？

近隣の崇道神社は八嶋陵内の崇道天皇社から勧請されたものですが、それだけでなく、崇道神社は様々な所で祀られているのです。

① 京都市左京区上高野 崇道神社

今やパワースポットとして評判を呼んでいるようです。比叡山も間近な、京の鬼門に当たるこの地に、9世紀半ば（貞観年間）に創建されたといわれます。江戸時代の初め頃、境内地の古い墓の石室から、長さ60cm近い金銅製の立派な墓誌が出土して、現在国宝に指定されています。「小野毛人墓誌（おののえみしほし）」です。小野毛人は遣隋使小野妹子の子で、7世紀後半天武天皇の時代に宮中の高官でした。このあたり小野郷は小野氏の故地で、その墳墓の地に崇道天皇も祀られている訳です。

② 奈良市西紀寺町 崇道神社

創建は大同元年（806）とされています。桓武天皇を継いだ平城天皇（へいぜいてんのう）の時代です。

この場所は八嶋陵から平城京に向かう道筋に当たり、塞ノ神のような意味もあったのでしょうか？

早良親王が罪に問われたため、皇太子になったのが、後の平城天皇です。叔父であった早良親王・崇道天皇への恐れは、誰よりも切実なものだったのでしょうか。

その平城天皇もまた、後に事件に巻き込まれ、不遇の

後半生を送る事になります。（詳しくは、2019年4月例会「平城宮跡」補足）



③ 奈良市出屋敷町 崇道神社

八嶋陵から北西へ2kmほどの所、深い森の中にあります。

灯籠の柱に「宗道天王」と刻まれ、1781年「天明元丑年」の年記があります。



④ 奈良市神殿町 崇道天皇社



古くからの集落の中にあります。両隣は消防団のポンプ格納庫と公民館です。

⑤ 奈良市北永井町 崇道天皇社



お社の前に滑り台やブランコなども置かれている、地域の生活と共存している神社です。

⑥ 奈良県御所市櫛羅（くじら） 崇道神社

30mを超えてそそり立つ神木のムクロジとムクとの木が、圧倒的な迫力で、物凄さを感じさせます。これほど遠く離れた葛城山の麓でも崇道神社に祈りを捧げる生活があったのでしょうか。

2020年10月の例会で訪ねました。



訃報

会員 中谷一夫さんは3月19日亡くなりました。
15年の永きに亘り、会長を勤めて下さいました。心よりご冥福をお祈りします。

ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。メンバーは現在34名です。
入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、毎月第4日曜日に歩いています。

4月からの予定は、 ◎灘五郷酒蔵めぐり（兵庫） ◎大阪空港 迫力の滑走路を一周（大阪・兵庫） ◎京街道を高麗橋から守口へ（大阪） ◎天理軽便鉄道跡を歩く（奈良） ◎隠岐の島ツアー（島根） ◎信楽高原鉄道・陶芸の森（滋賀） ◎京都トレイル（第5回） ◎浪花文学散歩（大阪） ◎寿長生（すない）の郷（滋賀） ◎京の五花街を巡る（後半）（京都）

ただし、コロナの推移に合わせて、柔軟に対応して行きます。

参加ご希望の方は、会務担当 山村恵一にご連絡下さい。

（電話：090-1484-4403、メール：y-yamamura@ares.eonet.ne.jp）

コロナに注意しながら、一緒に気軽に楽しく歩きましょう。（写真・文 生島 幸弥）